

一般質問

佐々木 優

(日本共産党)

投票時間の変更は有権者優先、周知徹底が必要

問 投票率の向上は選管として最も重要な仕事。今回の選挙から7カ所の投票所で投票時間が短縮された。変更を知らずに投票できない事態が発生した。

答 公職選挙法では「選挙人の投票に支障を来たさないと認められる特別の事情がある場合に限り、繰り上げることができ」となっている。有権者の投票する権利が、最大限に優先された上での判断でなければならぬ。変更に至った経過、判断基準、周知方法を伺う。

問 厳しい行財政環境下での、選挙の効率化・負担軽減などの検討を行った結果、同規模の投票所にあわせて変更を行った。

答 周知方法は、広報ふらの・新聞折り込み・入場券で知らせた。
問 今後への具体的な対応策は。
答 今回の事態を反省し、周知方法について今後研究して行く。



一票を投じる市民

変えられる農地法、見解と今後

問 現行農地制度は、戦前、農民の命がけの戦いにより確立され、農地の所有権は耕作者自らにあることを基本としている。しかし、改定される法律の柱は、農外企業や外国資本にまで農業の参入を自由化、さらに賃貸借期間を50年まで可能となり、事実上農地の所有を認めたところにある。見解を伺う。

答 自給率の低下や食品の安全性の問題が根底にあり、この対策の一環である。

問 許認可、監視・指導・勧告など農業委員会の責任は重くなる。体制の強化が必要である。
答 今後、関係機関と協議する。

大栗 民江

(公明党)

どうする？女性のがん対策

問 乳がんは、1年間に約4万人が罹患、1万人以上が死亡する。富良野市健康増進計画で、平成14年から16年の女性のがん死亡数の第1位は乳がん。早期発見が重要。検診受診率の推移は。受診拡大のための取り組みは。乳がん触診モデルや自己検診グローブ・シャワーカードの活用について見解は。

答 19年度14・0%、20年度17・2%。受診日を増やし拡大をすすめていきたい。乳がん触診



継続が期待される無料クーポン

モデルやグローブと浴室で利用可能な自己検診法を図で示したカード等の紹介をすすめて行く。
問 子宮頸がんは、20歳代〜30歳代の若い女性に急増しているがん。検診が最大の予防法。親御さん世代の認識も必要。検診受診状況と課題の認識は。受診率向上についての対策は。

答 19年度11・5%、20年度13・3%。今年度から妊婦検診受診券検査項目に含まれ、機会が増えている。出産後の継続受診について、乳児健診の機会を活用し新たに働きかけて行きたい。

高齢者・障がい者にやさしいサービス

問 民間施設等で、杖を掛けるバーやフック等が設置され、手作りの器具を設置している自治体も増えてきた。ささやかではあるが、本市の高齢者・障がい者への思いやりのあるサービスとして、杖フック設置の考えは。
答 杖を使う方たちへの何気ない気遣い、こころ配りが市民サービス向上につながるものと考え、窓口カウンター、洗面所、トイレ等に器具を順次設置する。